

## 赤こんりポート

馬場利男リポーター



## みんなで「力」をあわせてひっぱったよ

金田学区まちづくり協議会育成部会の主催で、令和4年度最後の「親子わくわくランド」が3月2日午前10時から行われ、未就園の親子8家族19人が参加しました。

子どもたちは、ボランティアスタッフ14人の演劇「おおきなかぶ」を鑑賞。大きくなったかぶを保護者と協力して一緒にひっぱる場面もあり、かぶが土から出てきてほっとしていました。その後、保護者とボランティアスタッフは子育てなどの意見を交換。今後も地域の輪が広がり、子育て支援イベントなどの参加者が増えることを願っています。

## 赤こんりポート

松村美沙枝リポーター

沖島でしかできないこと尽くし  
親子でエコツーリズムを堪能

沖島みんなの家ひだまりの主催で親子体験ツアー「沖島で湖魚を食べたらどんな味？」が3月18日に開催されました。代表の中嶋光代さんは、普段は島民の健康を守る看護師さん。沖島の人と触れ合い、環境科学などを学ぶ中で、「湖魚を食べたことのない子たちに食べてもらいたい。そして、また食べたいと思ってもらいたい」と考えた結果、イベントの開催に至ったそう。新鮮なモロコを下ごしらえ・調理して食べたり、絵手紙を沖島から送ったり（とてもかわいい消印がつくそうです）、漁船に乗せてもらえたり、参加者それぞれがたくさんの「初めて」を体験し、笑顔があふれていました。



## 赤こんりポート

東恵子リポーター



## この夏は江州音頭でドッコイサノセ

3月18日に桐原っ子ホールで「郷土の芸能 江州音頭に親しみましょう!!」という催しがあり、講師の櫻美家天勝さんこと深尾勝義さんが江州音頭のルーツや魅力を熱く語られました。近江商人と縁があり、かけ声の「ヨイトヨイヤマカ ドッコイサノセ」は、「夜から朝まで徹夜で働く」という意味だそう。コロナ禍で夏祭りができない年もありましたが、今年は輪になってリズム良くかけ声と踊りができそうです。深尾さんは「大きなかけ声を聴いてスツとした。みんなを元気にする江州音頭の普及活動を、今後もしていきます」と話していました。

## 赤こんりポート

今井良治リポーター

再犯防止をめざし保護司が  
協力雇用主新規拡大のため事業所訪問

近江八幡保護区保護司会では、犯罪や非行をした人たちの再犯防止、早期立ち直りのための安定した就労をめざし、協力雇用主の拡大に取り組んでいます。市内には保護観察者の就労先や職種もまだまだ少なく、本人が希望する仕事につけていない現状が課題となる中、保護司全員がチームを組むなどして市内の事業所を訪問し、理解と協力を求めています。協力雇用主の増加や選択できる職種の幅が広がることで、本人、事業所、地域社会の三方良しの関係が築けるものと保護司会では期待しています。

協力雇用主に関する問い合わせは、近江八幡・竜王更生保護サポートセンター☎46-3141（内線345）まで。

3月25日



## 津田千拓地果樹生産組合 植樹セレモニー

湖周道路沿いの津田千拓地で、新たな産地づくりとしてブドウとナシの果樹団地の整備を進める津田千拓地果樹生産組合が、果樹棚の一部完成を祝して、ブドウの苗木を植樹する記念セレモニーを実施しました。

吉長昌弘組合長は「地元近江八幡はもとより、滋賀県、関西、そして全国の皆さんに大地のめぐみと感動を届け、この地で育ったブドウとナシが市内の魅力発信源となるよう挑戦したい」と意気込みを語りました。

その後、圃場内に移動し、関係機関や生産組合など関係者とともにブドウの苗木の記念植樹を行いました。

4月16日



## 旧西川家住宅で「万華響」コンサート

旧西川家住宅で、箏とメゾソプラノ、ピアノの3人グループ「万華響」によるコンサートが開かれました。普段は交わることはない和と洋の響きが、ころころと絵柄が変化する「万華鏡」のようになればと「万華響」と名付け活動しています。

コンサートは旧西川家住宅の庭を借景に、「おぼろ月夜」や「さくらさくら」などの耳なじみ良い曲が、ジャズ調やオペラ調などにアレンジされ、全11曲が演奏されました。

箏を演奏した橋高幸さんは「歴史ある建築物でコンサートを行うのは、文化が好き人や音楽が好き人をつなぐことができたようでうれしい」と話していました。

3月23日

日本の障がい児教育を世界に  
海外協力隊員としてマレーシアに赴任

JICA（独立行政法人国際協力機構）の海外協力隊員として、マレーシアに派遣される中村町在住の萩原良夫さん（写真中央）が、5月に2年間の任期で赴任先へ向け出発するにあたり、市役所を訪れました。

赴任先では、「ペラ州教育局ケリアン教育事務所特別支援教育課」に配属され、障がい児教育に従事する予定です。

萩原さんは、「障がいのある子どもたちが持っている本来の力を発揮させるために、教材や教育の仕方を工夫してきました。これまでの経験を生かして、海外でも重度の障がいがある子どもたちが教育を受ける環境づくりの手助けができるよう努めたい」と意気込みを語りました。

4月1日・2日

4年ぶりに斎行  
「沙沙貴まつり」大松明の奉納神事

近江源氏佐々木氏の総社である安土町常楽寺の沙沙貴神社で「沙沙貴まつり」が行われました。令和2年からはコロナ禍の影響を受け神事のみでの斎行でしたが、今回は4年ぶりに神賑行事が斎行されました。

大松明世話役の水原俊彦さんは「コロナ禍で効率化が進んだが、やはり人の交流は地域にとって重要です。思い入れがあり、歴史あるまつりを絶やしたくないというみんなの思いが今回のまつりに表れています。まつりが長く続くよう願っています」と話していました。